



図書館だより

令和5年5月
八尾高校図書委員会
31H 梅田・馬場

外国で人気の本

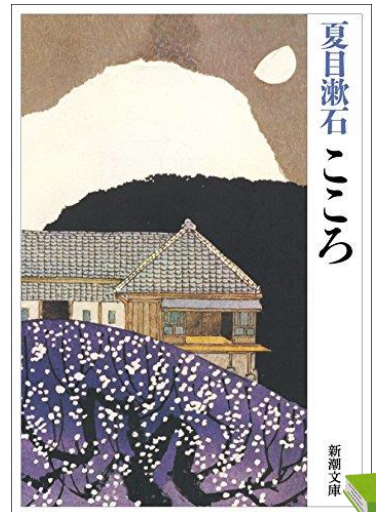
国現の授業で「こころ」を学習し、インターネットで調べたところ外国で人気だということを知りました。興味を持ち調べると、昔の有名な文豪の本だけでなく、ラノベなども人気があるそうです。今月はそんな本を紹介します！

「こころ」 夏目漱石 新潮社

「先生と私」「両親と私」「先生と遺書」の3部からなる長編小説で、教科書にも掲載されている。主な登場人物は語り手である「私」、主人公である先生、先生の奥さん、先生の親友である「K」。

先生と「K」は同じ女性に恋をしていた。ある日、先生は親友を出し抜いて、女性に告白した。そのことを「K」に伝えると後日、「K」は自殺した。先生は恋人を得たのと同時に親友を失った。

その後、先生はこのことを誰にも打ち上げられずに罪の意識を背負ったまま生き続ける。近代文学を代表するこの作品を1度は読んでみてほしい。

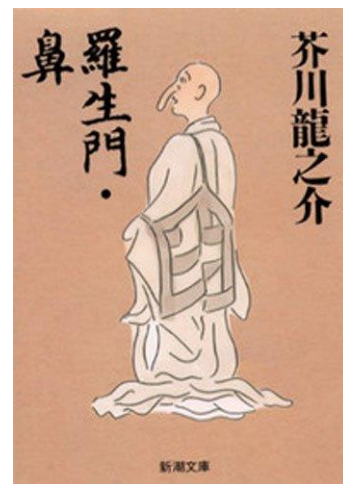


「海辺のカフカ」 村上春樹 新潮社

この作品には2人の主人公がいる。1人目の主人公は中野区に住む15歳の少年の田村カフカである。カフカは父親の呪縛から逃れるために家出を決意。そして、深夜バスに乗り四国に向かう。もう1人の主人公は同じく中野区に住む60代半ばの男性のナカタサトルである。ナカタは戦争や暴力で失った記憶を取り戻すため「入り口の石」を求め四国に向かう。カフカは向かう道中父親が何者かに殺され、その後知らない土地の図書館の片隅で暮らすようになった。そこで15歳の少女と出会う。一方、ナカタは中日ドラゴンズファンのホシノ少年に助けられながら、旅を続ける。2人の物語がどのようにつながるのか――。

「羅生門」 芥川龍之介 新潮社

羅生門の下で、主人から解雇された若い下人が、死人の髪の毛を抜く老婆との会話の中で、生きるために必要な悪があるということを感じ、悪に染まっていきます。下人が生きるために善から悪の感情に変化するところがリアルで、人間の負の部分に光を当てた作品です。下人のその後は、読者の想像に任せる終わらせ方ですが、元々は下人の最後がしっかり書かれていました。ぜひ探してみてください。





「空ろの箱と零の MARIA」 御影瑛路 KADOKAWA
 3月の中途半端な時期に転校してきた音無彩矢に「お前を壊す」と宣言された、主人公星野一輝。彩矢いわく、彼女たちの教室は2600回以上も同じ日をループしていてその犯人は一輝なのだという。ダークな世界観とミステリーな展開に引き込まれます。ミステリー初心者にも読みやすいと思います。海外でも人気なラノベでありすごいと思いました。

新着図書紹介 図書館前にて 展示中

大岩のいちばんはじめの英文法 超基礎文法編：大岩秀樹	電力崩壊：竹内純子
発達障害・グレーゾーンの子がグリーンと伸びた声かけ・接し方大全：小嶋悠紀	教場：長岡弘樹
図解 PREMIUM 眠れなくなるほど面白いヤバい心理学：神岡真司	冒険の書：孫泰蔵
おかあさん、お空のセカイのはなしをしてあげる：竹内文香	思考技術：高松智史
一生頭がよく続けるすごい脳の使い方：加藤俊徳	ボタニカ：朝井まかて
精神科医 Tomy が教える心の執着の手放し方：Tomy	人を選ぶ技術：小野壮彦
鳥類学が教えてくれる「鳥」の秘密事典：陳湘静	月と散文：又吉直樹
「おかえり」と言える、その日まで：中村富士美	標準著作権法：高林龍
マイノリティ・マーケティング：伊藤芳浩	ヴィーガン探訪：森映子
プロトコル・オブ・ヒューマニティ：長谷敏司	笑って人類!：太田光
DIE WITH ZERO：ビル・パーキンス	黄色い家：川上未映子
発達障害の人が見ている世界：岩瀬利郎	ピアノマン：南波永人
帰ってきた生協の白石さん：白石昌則	天路の旅人：沢木耕太郎
聞く技術聞いてもらう技術：東畑開人	機嫌のデザイン：秋田道夫
おいち不思議がたり：あさのあつこ	瓢箪から人生：夏井いつき
人体大図鑑プレミアム：坂井建雄	奇跡のフォント：高田裕美
成瀬は天下を取りに行く：宮島未奈	安倍晋三回顧録：安倍晋三
2025年日本はなくなる：内海聡	エールは消えない：志村季世恵
街とその不確かな壁：村上春樹	魔女と過ごした七日間：東野圭吾
ものがわかるということ：養老孟司	やさしさを忘れぬうちに：川口俊和



昆虫の惑星：アンヌ・スヴェルトルップ=ティーゲソン
 タガヤセ!日本：白石優生



読書感想文コンクール
 課題図書入りました!

